

## [ I. 危機突破の総仕上げに向けて ]

### 1. 災害に強い原子力発電所の構築に向けた取り組み

東京電力グループのみならず協力企業の皆さまの協力を得ながら、引き続き総力をあげて、災害に強い原子力発電所を構築いたします。

#### (1) 災害に強く安全・安心な原子力発電所の構築

- ・ 柏崎刈羽の全号機復旧に向け、安全を最優先に設備の点検・評価、耐震強化などのプロセスを確実に実施します。
- ・ 福島第一および福島第二原子力発電所においても「基準地震動」に基づく耐震安全性の評価を踏まえ、必要な耐震強化工事を行うとともに、柏崎刈羽における知見を反映した対策を着実に実施します。

#### (2) 災害発生防止に向けた取り組み

- ・ 復旧・耐震強化工事の実施にあたっては、協力企業の皆さまと一体となり、現場での安全環境の確保や安全最優先の意識の浸透、ルールと基本動作の再徹底により、災害発生を未然に防止する取り組みを強化しています。

#### (3) 情報公開の徹底による信頼関係の構築

- ・ 地域や社会の皆さまの声に真摯に耳を傾け、点検・復旧の状況等について情報公開を徹底するなど「地域とともに考え、歩む」を基本に、地域との信頼関係を構築しています。

### 2. 安定供給の確保に向けた取り組み（[ IV. 供給計画の概要 ] 参照）

平成 22 年度夏期の最大電力（発電端 1 日最大）は、通常の暑さとなった場合、5,910 万 kW を見込んでおります。供給面では、柏崎刈羽原子力発電所 6・7 号機の営業運転移行などにより 6,280 万 kW 程度の供給力を確保する計画としております。

また、電源設備の確実な運転・保守と流通設備における点検・巡視など保守対策を実施するとともに、的確な需給・系統運用を継続し安定供給の確保に努めてまいります。

#### <平成22年度夏期の需給見通し> (万kW)

	8月
最大電力（発電端 1 日最大）	5,910
供給力（発電端）	6,280
予備力（発電端）	370

\* 供給力は他社受電を含む

### 3. 恒常的な原価低減に向けた取り組み

危機突破のための緊急的な費用・投資削減の取り組みで培った創意工夫や技術的知見を、恒常的な原価低減方策として業務に定着させていきます。さらに、グループ一体となって新たな原価低減方策の創出に一層取り組むとともに、迅速に標準化を図り、着実に水平展開してまいります。

#### <原価低減と設備保全効率化への取り組み>

##### 設備形成の合理化

- ▶ 計画の厳選・スリム化
- ▶ 設計・施工・仕様の合理化
- ▶ 設備のスリム化の推進 など

##### 運用・保守の合理化

- ▶ 点検周期の最適化
- ▶ 設備状態に応じた点検等の合理化
- ▶ 設備診断技術の高度化 など

##### 業務プロセスの見直し

- ▶ グループ会社との業務連携・情報共有化
- ▶ IT活用による業務効率化
- ▶ 資材調達・流通プロセスの見直し など

##### その他の合理化

- ▶ 燃料費の低減
- ▶ 契約面の工夫による調達価格の低減
- ▶ 建物・設備等の賃借料の低減 など